

立命館大学環太平洋文明研究センター第1回研究会

10月31日(木)18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館2F 研究会室2

## 財としての「土地」の出現

ーパナマ東部先住民エンベラの土地利用の新たな形式ー

近藤宏（立命館大学生存学研究センター専門研究員：人類学）

パナマ東部ダリエン地方に居住する先住民エンベラは、前世紀中頃まで村落を形成せず、不定期に居住地を変える可動性に開かれた生活様式を発展させていた。しかし、先住民の土地に対する権利に関する諸言説が広く流通するようになった今日では、村落を形成するようになり、法的にも境界画定された土地の所有者と規定されている。人びとの生活様式には由来しない「境界画定された土地」という観念が、現在の土地利用実践にどのように結びついているのかを報告する。

立命館大学環太平洋文明研究センターは今年4月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学の研究者からなる研究組織です。

定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。



パナマ東部ダリエン地方の土地

問い合わせ先：矢野健一（文学部：kyl21175@lt.ritsumeil.ac.jp）

立命館大学環太平洋研究センターHP：<http://www.ritsumeil.ac.jp/research/rcppc/>